

令和3年4月26日

上富良野町長
齊藤 繁様

要 望 書

春暖の候、貴職におかれましては、町の発展と、町民の福祉向上に傾注されておられますこと、心から敬意を表すものであります。

併せて『町民の声で「かみふ」を創ります』と、町民目線で尽力されていますこと、一町民として感謝申し上げるとともに、ご期待申し上げるところであります。

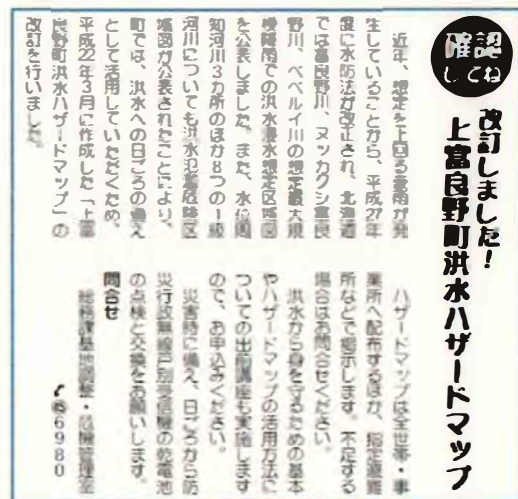
さて、要望であります。主に『**上富良野町立病院の改築に伴う、建設予定地敷地内に、建設される新町立病院に至る経路の、安心・安全確保の考え方について、町民の声を聞かせていただきたい**』このことを防災意識の向上及び減災の観点から、平成31年4月に、各家庭に配付されたハザードマップ及び、昨年10月開催された、まちづくりトーク並びに、「町立病院改築基本計画（案）パブコメ・町の考え方」を拝見したうえで、要望致します。まず、

平成31年4月に配られた「上富良野町洪水ハザードマップ(平成31年3月作成)」には、『このハザードマップを活用して、浸水箇所を避けて、避難経路を選定して下さい。』と

記述してあり、家族で「ハザードマップ」を確認しながら、避難所及び避難経路を選定した際、現町立病院に至る道路が、浸水することを知り「気候変動と、叫ばれる中」活火山十勝岳の麓に住む町民として、各種災害を想像し心配していました。そのような想いの中、

昨年10月に、町民と町長が語り合う、まちづくりトーク「町立病院改築基本構想」が開催され、私達夫婦も参加させていただきました。

その概要が掲載されている広報誌及び、会議録を見て、当時を振り返ると、広報誌には、『町の洪水ハザードマップでは、建設予定地が水害時に最高50cmの浸水の恐れがあるとされているが、その対策は考えているか』の問いに対し、町は『浸水の恐れがある地域だと承知している。引き続き災害拠点病院として、町の防災担当と協議しながら、対策は万全としていく。』と答えています。



次に、今年 1 月公表の「上富良野町町立病院改築基本計画（案）」には

施設整備の基本的な考え方(基本構想掲載)に、**災害に強い施設の整備**
「**災害時**を想定したライフラインの確保や、
災害後にも病院機能を維持できる施設を整備します。」

と記述してあります。さらにパブコメの 8 項には

25 頁の敷地条件の整理には「敷地内に高低差があるため、造成工
事の必要性あり」と記述されていますが、次のとおり質問します。
新病院に至る経路の確保について、記述がないのはなぜですか？
ライフラインの確保・病院機能の維持は大丈夫ですか なぜ記述がない
のかお伺いします。」

の問いに【町の考え方】として、

ライフラインについては、現在と同様の整備内容(水道・電気など)
で供給を受ける計画です。現在の非常用発電機は電力不足のため、災
害時における必要な電力を確保できる機能整備を基本設計にて検討し
ます。

とあり、**新病院に至る道路に関する記述はありません。**

基本構想の時点で、建設予定地は決定しており、災害に強い施設の整備、新病院に至る道路の安心・安全確保について既に協議し、会議等参加者が納得している。との思いから、パブコメ及び各種の会議録を拝見させていただきました。そこでパブコメの 3 項には

「基本構想決定に至る過程、何時から・誰が・どのようにして、基本
構想決定に至ったかが不明確、後の事を考え、記録として基本計画に
記述する必要があるのではないのでしょうか？」

例えば、快適な 医療環境（働いてみたい、働きたい病院）の観点
から、どのようなメンバーで話し合ったのか 記録を残すことは必要
と思いますがどうでしょうか？ なぜ記述しないのかお伺いします。

との問いに、【町の考え方】として、

**平成 30 年に「医療・介護・保健福祉担当課長・主幹会議」を構成
し、11 月に「町立病院及びラベンダーハイツの整備(建替)に関する
方向性について」を取りまとめ、町立病院の整備について検討を開始
しました。この間、関係機関、病院内各部署、町立病院運営審議会、
町議会 厚生文教常任委員会などと協議を重ね、令和 2 年 9 月に基本
構想を公表しました。基本計画は運営計画、整備計画を中心に取り
まとめたもので、基本構想決定の経緯は記載していません。**

とあります。

この文面及び、まちづくりトークの回答から、**防災を含む各課代表者、専門的な知識をお持ちの方、私達の代表である議員など、多くの方と話し合いを重ね、その多くの方の意見を取り入れた「基本構想を公表（決定）」するに至ったこと、新病院に至る道路の安全確保についても、協議されたものと推測されます。**

ただ、上富良野町立病院改築基本計画（案）及びパブコメを拝見しても、『**災害時、災害後に多くの傷病者が発生することが予想され**』、私達町民の、頼みの綱である町立病院、その病院に至る経路が、「ハザードマップ」を見ると、浸水する道路となっている。**安全確保について基本計画に文書化されていないのはどうしてなのか？ 町の防災担当者と、どのような協議をされ、その結果を踏まえて、どのように前述の会議等において話し合わせ、会議の参加者が納得しておられるのか理解できない**でいます。

公開されている、町立病院運営審議会の会議録を拝見しましたが、町長、副町長も、挨拶後退席されており、また協議というより報告と質疑応答のように感じました。

他の会議等、厚生文教常任委員会などで、協議の場を持たれたものと思います。

命を守る公の施設である病院、『**防災意識の向上・減災の観点から、平成28年の消防法改正から、基本構想・計画決定に至る協議の場において、「災害時・災害後にも、病院機能を維持できる施設について、どのような話し合いの場を持ち、参加者の声を聞く努力をされ、会議に参加した多く町民（議員含む）が、納得されたのか、町の声、聞かせて下さい。**』

』よろしくお願い致します。
なお、新病院建設に向けて今一度、専門的知識をお持ちの方々と共に「医療従事者が働きやすい、働いてみたい病院」をテーマに、参加者を募る等の工夫をして、話し合いの場を持っていただきたい。また町民トークにもあるように、コロナの教訓を生かすべく、かかりつけ医として5・10年先を見据えて、オンライン診療及び、オーダーリングシステム、電子カルテ導入について、再検討していただければと思います。電子化、システム化は業務の効率化、**医師をはじめスタッフ及び、利用する患者の負担軽減**になるものと思います。

町民誰もが、より良い町立病院建設を望んでおり、新町立病院建設に多くの町民が関心を持っている今、関心から関与へと、**町民の声で共に創りあげる環境を整えることは、町として、今一番大切なこと**ではと思います。

「町民の声で創りあげる環境を整え、今まで他の市や他の町の病院に流れていた町民が、自分たちも関与した新町立病院に足を運ぶ、そのような良い流れになり、将来にわたり健全な病院運営ができる事を「かみふ」が大好きな一町民として心から願っています。」

乱文をお許しいただき、お忙しいとは思いますが、よろしくお願い申し上げます。